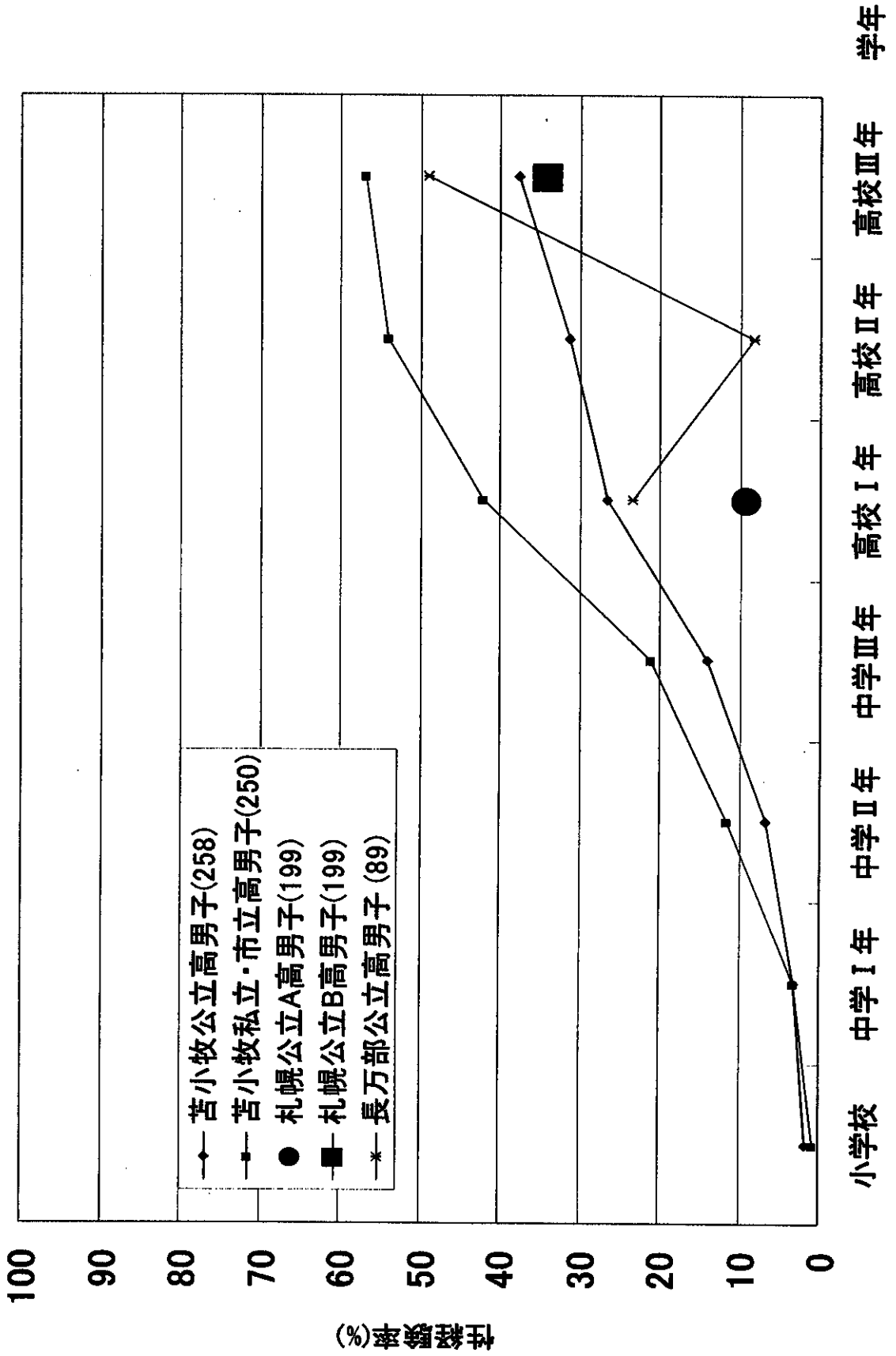
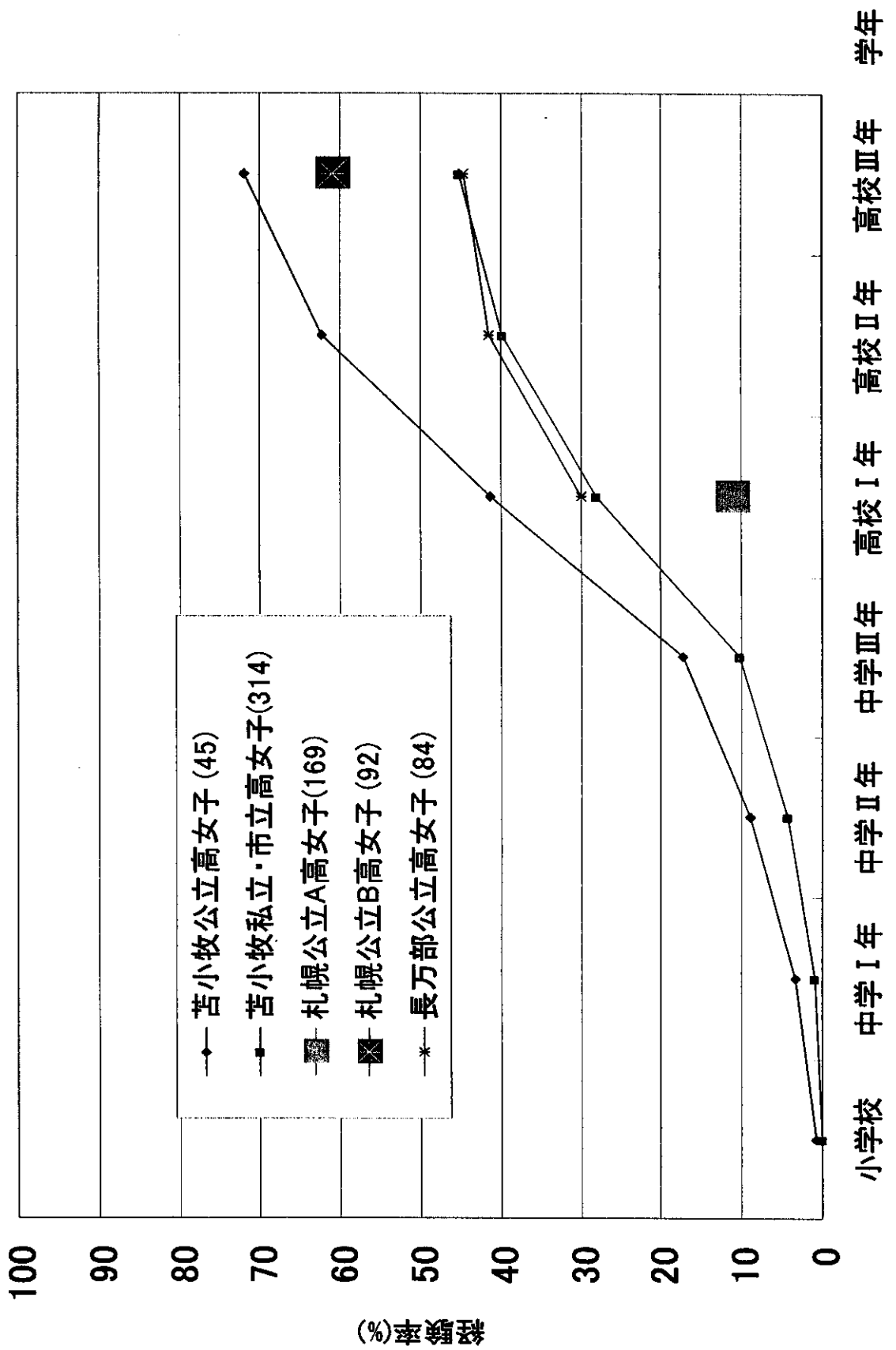


男子高校生性経験率



女子高校生性経験率



北海道の一地方都市（苫小牧市）の高校生の性意識、性行動に関する調査の検討

林 謙治、高柳直巳、境野圭子
船橋喜美子、佐藤隆志

北海道の一地方都市（苫小牧市）の高校生の性意識、 性行動に関する調査の検討

Survey on Sexual Knowledge and Behavior of High School Students in the City of Tomakomai in Hokkaido

林 謙治¹⁾

Kenji HAYASHI

船橋喜美子³⁾

Kimiko FUNAHASHI

高柳直巳²⁾

Naoki TAKAYANAGI

佐藤隆志⁴⁾

Takashi SATOU

境野圭子³⁾

Keiko SAKAINO

2000年9月～11月、苫小牧市及び近郊の高校生1,819名（男子753名、女子1,066名）を対象に、東京都で行っている田能村教育問題研究所式の質問に、STDの既往や自覚症状の有無に関する質問を追加し、調査した。1) 高校三年生の性交経験率は男子で56.8%、女子で45.2%であった。2) 初めての性交で「避妊した」は男女とも約50%で、二度目以降では「いつも避妊した」は男女とも約20%であった。3) STDの認識度はHIV感染症が約90%と高かったが、クラミジア感染症が約45%と低く十分な性教育が行われていないことが考えられた。

以上、苫小牧市の高校生の性意識・性行動は大都市と同等と思われた。今後、十代の若者に対してHIV感染症だけでなくクラミジア感染症を中心としたSTDの予防教育やそのための積極的なコンドーム使用の習慣を啓蒙することが必要と考えられた。

We conducted a survey on the sexual knowledge and behavior of high school students in Tomakomai and its suburbs, between September and November 2000.

A total of 1819 students (753 boys and 1066 girls) answered 27 questionnaires prepared by the Tanomura school education group and other questionnaires concerning STD and tealth.

Results: 1) The rates of experince of sexual intercourse of 3rd-year high school students were 56.8% for boys and 45.2% for girls. 2) The rate of using a contraceptive at the time of first sexual intercourse was about 50% for students, while the rate at the second or subsequent times was about 20%. 3) About 90% of students had knowledge about HIV infection, and about 45% knew of Chlamydial infection.

Conclusions: These data indicate that the sexual knowledge and behavior of high school students in Tomakomai were similar to those in bigger cities.

Education programs targeting teenagers are one of the most effective methods of preventing STD and contolling contraception by encouraging the use of condoms.

Key words : Sexual health, High school students,

1) 苫小牧泌尿器科クリニック：Tomakomai Urological Clinic, Tomakomai.

2) 高柳小児科：TAKAYANAGI Pediatric Clinic, Tomakomai.

3) 苫小牧STD研究会：Tomakomai STD Study Group.

4) 王子総合病院泌尿器科：Department of Urology, Oji General Hospital, Tomakomai.

平成13年3月7日受付、平成13年3月31日掲載決定

(〒053-0054) 苫小牧市明野新町2-1-12 苫小牧泌尿器科クリニック 林 謙治

緒言

最近の厚生省性感染症動向調査^{1),2)}では十代の性感染症(以下、STD)、特に十代後半の女性における性器クラミジア、淋菌感染症の増加が報告されております。

そこで人口17万の苫小牧市の高校生の性意識、性行動の実態を把握し、それに即した適切な性教育やSTDの予防に役立てることを目的にアンケート調査を行った。

対象と方法

調査は2000年9月から11月までの期間、苫小牧市内及び近郊の5高等学校(公立3校、私立2校)でホームルームの時間などを利用し、各校の養護教員および職員の先生の協力を得て行なった。対象はアンケートの回答を得た高校生1,819名(うち、男子753名、女子1,066名)とした(Table 1)。アンケートの回収率は100%であった。

調査方法は自記式アンケート調査で調査回答用紙は記入後に無記名で添付の封筒に密封し、提出する方法を採用した。

アンケートの質問内容は東京都で既に行なわれている田能村教育問題研究所³⁾の質問(27問)にSTDの既往や自覚症状の有無に関する質問(2問)を追加したものを用いた。

成績

1. 高校三年生の性交経験率と初交の時期 (Fig. 1)

高三生時の性交経験率は男子で56.8% (142/250)、女子で45.2% (142/314)であった。

なお、公立高と私立高別では男子で公立47.7% (42/88)、私立61.7% (100/162)、また女子で公立34.0% (51/150)、私立55.5% (91/164)と私立高生の方が男女ともに高い経験率であった (p<0.05)。

また初体験の時期は男女ともに中三から高二にかけてが多く、急激な増加を認めた。

2. 初交の相手 (Fig. 2)

初交の相手が高校生が男女とも約過半数であった。尚、男子では小、中学生の年少者が39.2%であるのに対し、女子では大学生や社会人など年長者が17.3%であった。このことから性交相手の多様化の傾向が認められた。

3. 初交の動機 (Fig. 3)

初交の動機は「愛していた」が男子で43.2%に対し、女子では66.7%と大きく差を認めた。その反面、「遊び、好奇心」は男子で38.5%であるのに対し、女子では10.9%と男子の方が性的衝動に流されやすい傾向がみられた。

Table 1 Number of surveyed high school students

	Boy students				Girl students				Total number
	1st year	2nd year	3rd year	sub total	1st year	2nd year	3rd year	sub total	
public school (3)	82	71	89	242	178	183	154	515	757
private school (2)	174	171	166	511	193	192	166	551	1062
total school (5)	256	242	255	753	371	375	320	1066	1819

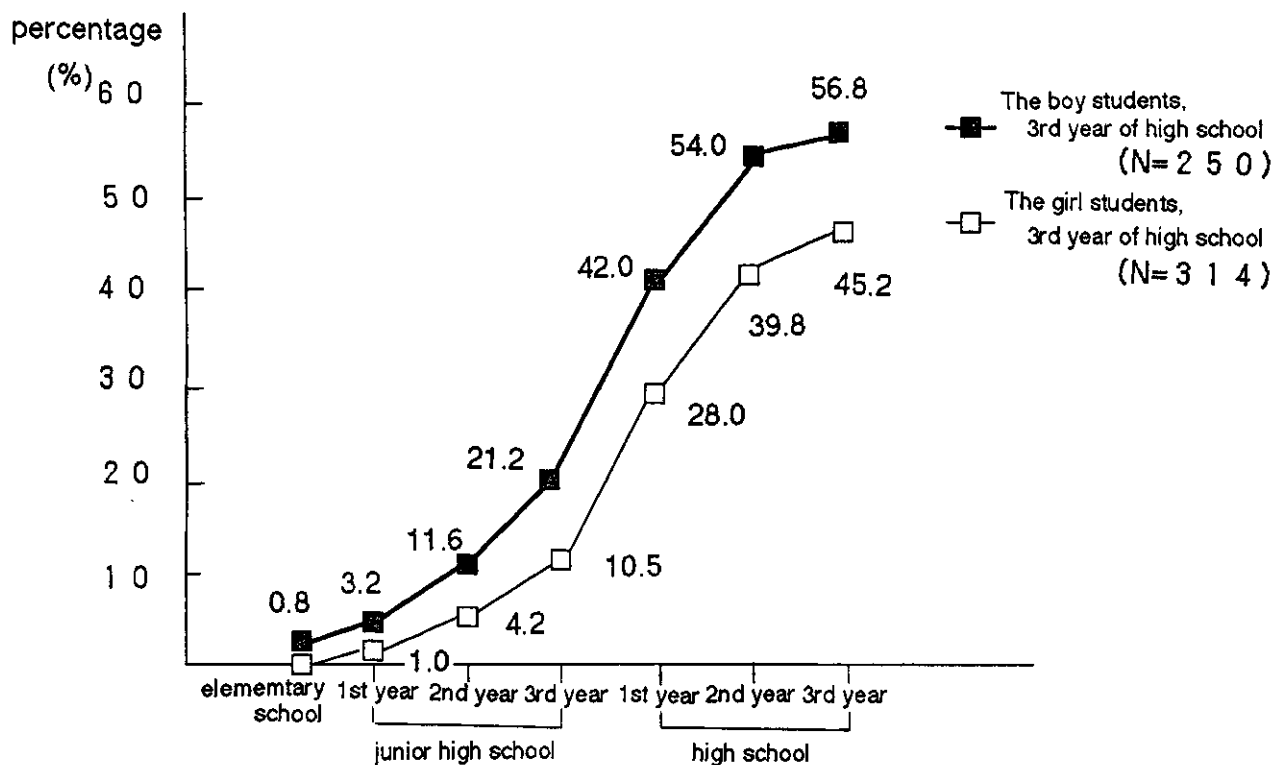


Fig. 1 Sexual intercourse experience (first experience)
3rd year of high schools in the city of Tomakomai

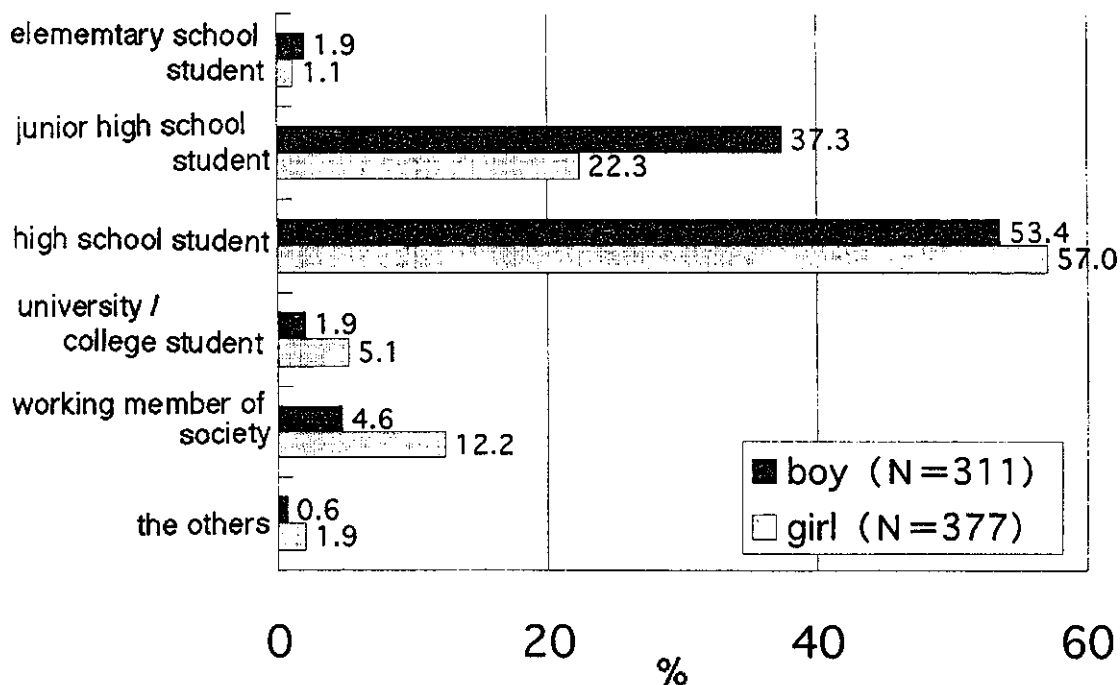


Fig. 2 Partner in the first sexual intercourse

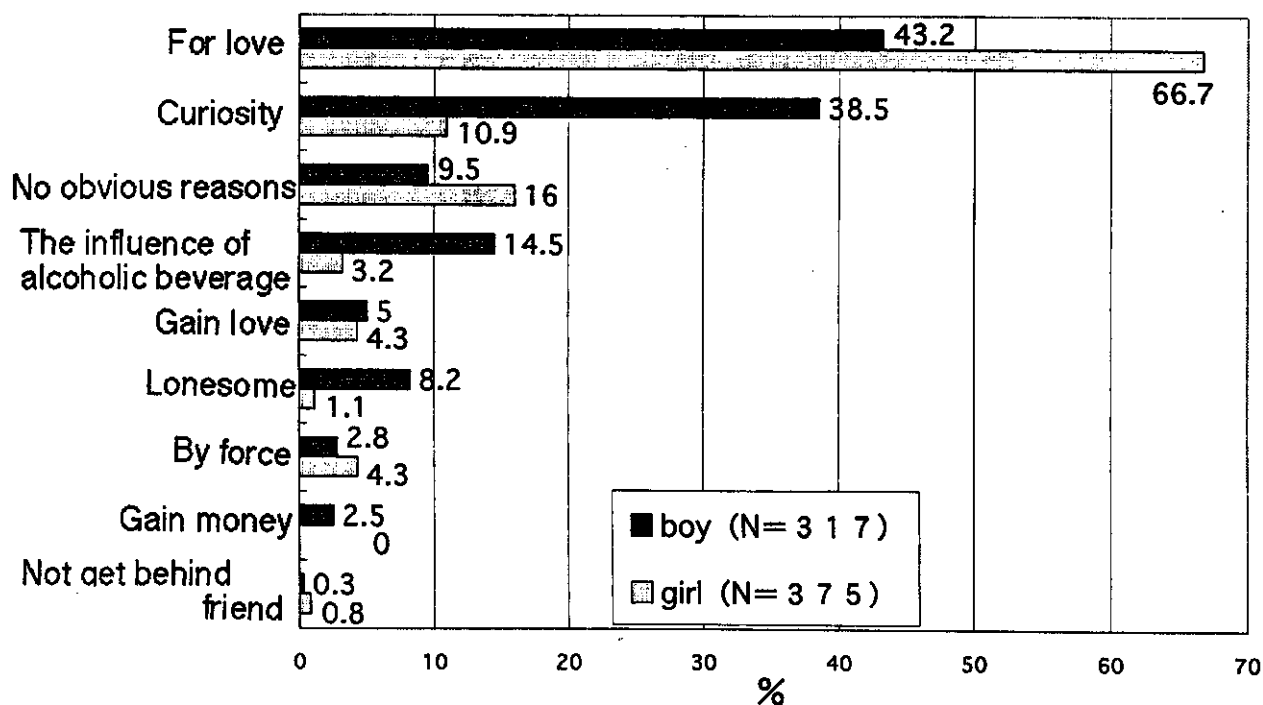


Fig. 3 Motive for the first sexual intercourse

4. 避妊状況 (Fig. 4, Fig. 5)

初交時に「避妊した」は男女とも約50%、避妊しないが約40%であった。二度目以降で「いつも避妊した」は男女とも約20%で、「時々避妊する」が約50%であった。

5. 「援助交際に対する意識」 (Fig. 6)

「よくないと思う」という否定的な回答は男子で25.3%、女子で31.7%であったが、「後悔しなければよい」や「本人の自由でよい」など肯定的な回答が男女とも過半数になっていた。このことから援助交際などに対して安易な意識があることが認められた。

6. STDの認識度 (Fig. 7)

今まで学習してきたSTDについての回答を示す。「HIV感染症」の認識度は、男女とも約90%であった。一方、クラミジア感染症の認識度は45%前後で、梅毒や淋菌は30%前後であった。

7. STDの既往と自覚症状の有無

「STDの既往あり」と答えだものは、男子で0.9% (6/679)、女子で1.3% (13/686) で、その内訳は男子はクラミジア1例や陰茎コンジローム2例など、女子はクラミジア4例、性器ヘルペス2例、淋病1例、性器コンジローム1例、カンジダ1例などであった。

また、STDを疑わせる自覚症状を有する者は、男子で0.9% (6/665)、女子で2.9% (24/963) であった。

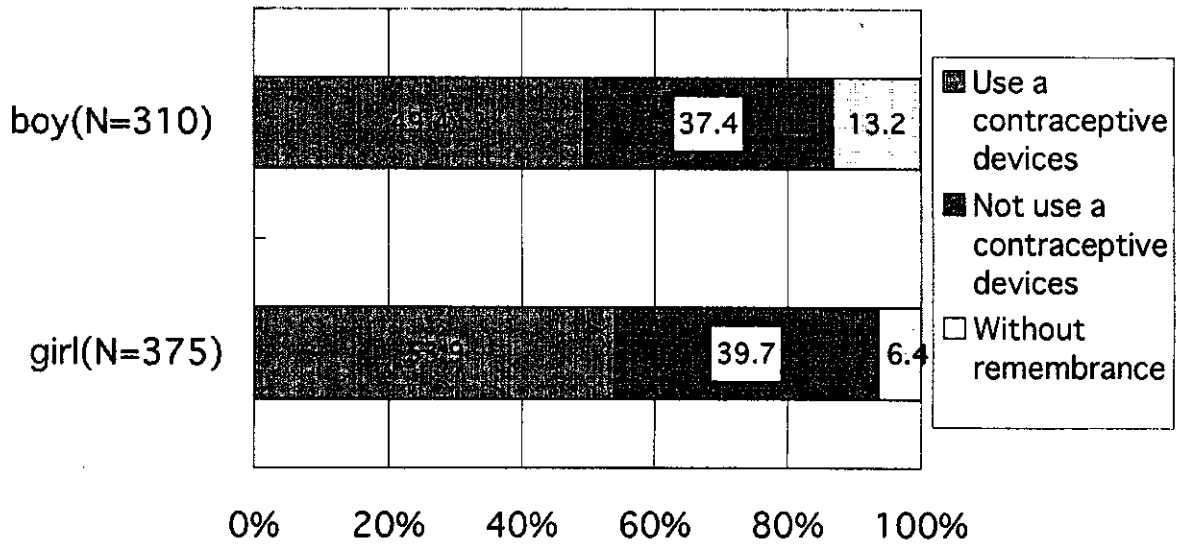


Fig. 4 Contraception in the first sexual intercourse

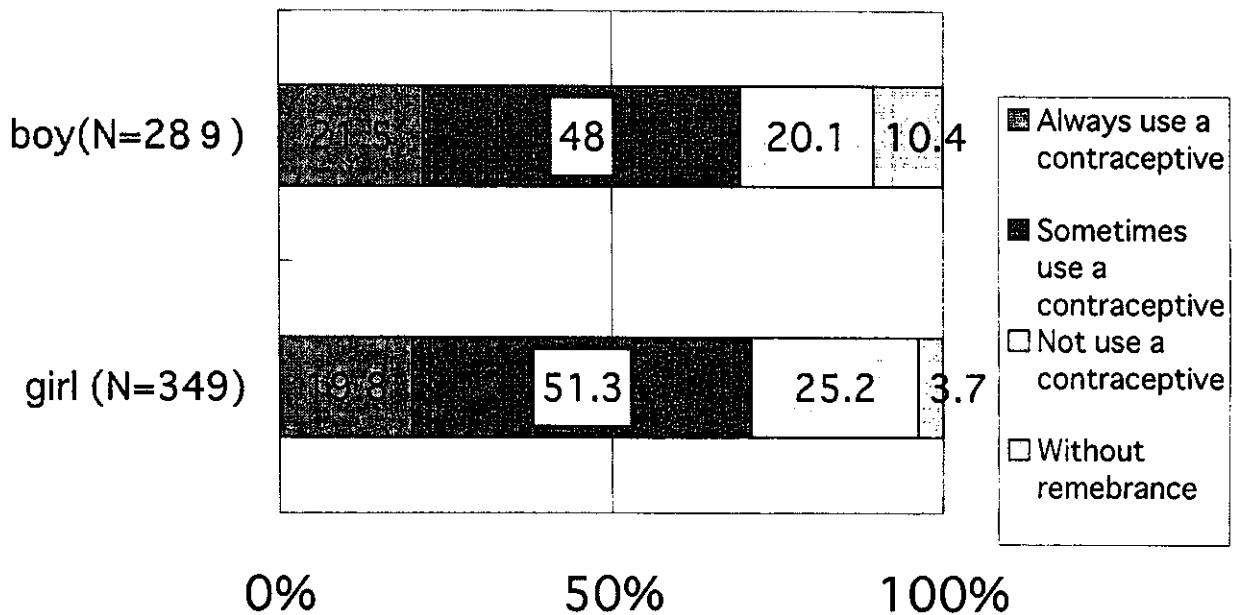


Fig. 5 Contraception after second experience

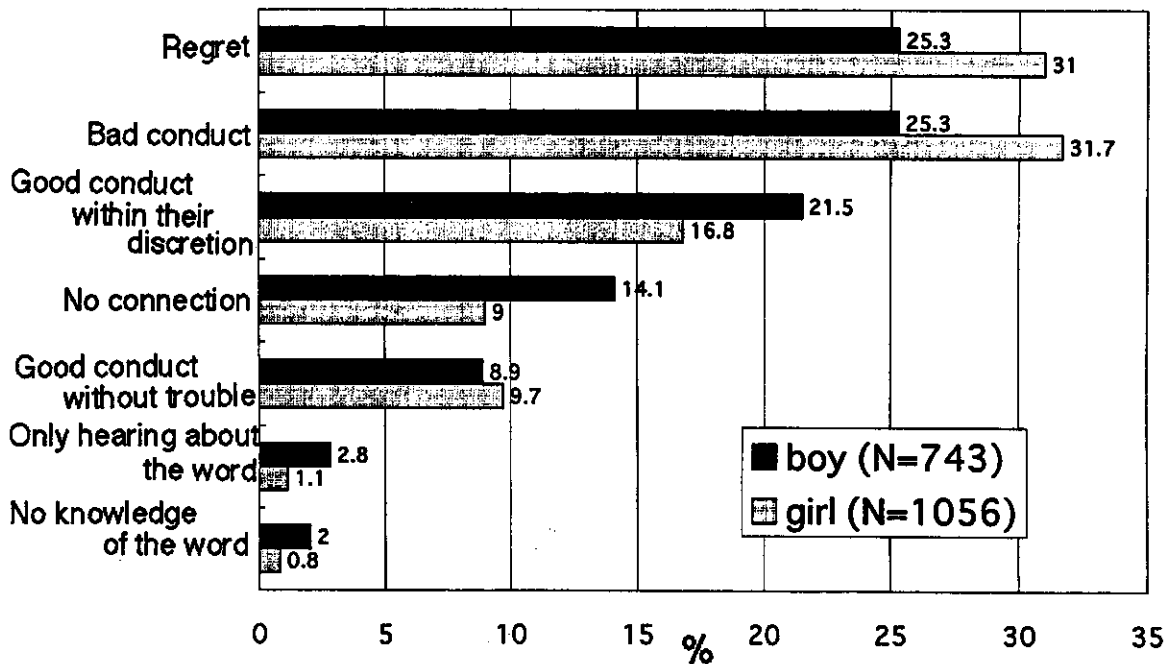


Fig. 6 Conscious of relations with unfamiliar people with money

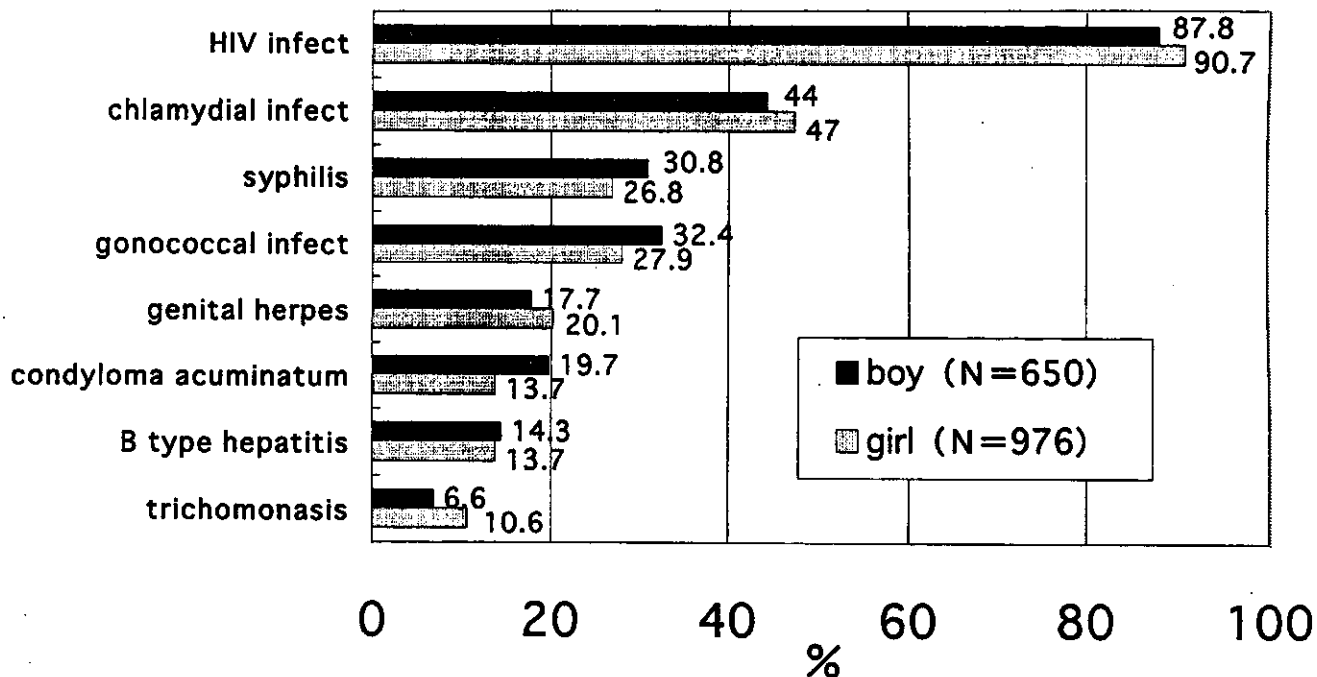


Fig. 7 Percentage of knowledge on sexually transmitted disease [STD]

考察

若者の性の自由化

近年、性器クラミジア感染症を中心としたSTDが十代の若者で増加してきていることが報告^{1),2)}されている。これは若者の間で性の自由化が進み、また性交経験の低年齢化や性交相手の複数、多様化が関係しているものと考えられる。実際、われわれ³⁾や諸外国⁴⁾での報告によると妊婦におけるクラミジア感染症の感染リスク因子は若年者、未婚者、低初交年齢などであることが明らかになっている。

そこで十代の若者の性意識や性行動を調査し、それに即した性教育やSTDの予防教育に役立てること目的に苫小牧市の高校生を対象に質問紙を用いて調査を行なった。

これまで十代の若者の性意識や性行動について「東京都幼小中高性教育研究会」(同会顧問 田能村祐麒、田能村教育問題研究所長)が1981年から3年ごとに都立高校生を対象に調査を行ない報告している。それによると1999年の報告⁵⁾では高校三年で性交経験率は男女とも約40%であり、3年前の調査(男子29%、女子34%)より上昇している。

今回のわれわれが行なった北海道の一地方都市である人口17万の苫小牧市の高校生での調査では男子で56.8%、女子で45.2%と高校三年生の約50%が性交経験を持っていることが考えられる。なお、苫小牧市の公立の高三生の性交経験率は約40%であり、これは東京都の公立高での報告とほぼ同等であった。

また、高校生の性意識について「遊び、好奇心」がセックスの動機となっているのが男子で強く、男子の方が性的衝動に流されやすい傾向がみられる。また「援助交際に対する意識」は「よくないと思う」という否定的な回答が男女で約30%前後であったが、「後悔しなければよい」や「本人の自由でよい」など肯定的な回答が男女とも過半数になっている。特に女子では「ブランド品を身に付けたい」などお金目的で援助交際をする傾向があるように思われる。今時の高校生はセックスや援助交際などに対して安易な意識があることが示唆される。

避妊の状況

初交時に「避妊した」は男女とも約50%、二度目以降で「いつも避妊した」は男女とも約20%で、高校生でもコンドームの使用による避妊が十分に実施されていないことが示唆される。

最近、「10代妊娠」が社会的によく問題にされているが、10代のSTDの増加の報告^{1),2)}からすれば“妊娠の前にSTDあり”を強調すべきと言える。そのため、「望まざる妊娠」を回避するためだけでなく、STDの予防のための積極的なコンドーム使用の習慣を指導することが必要と考えられる。

STD予防教育の現状

「HIV感染症/AIDS」に関する情報は学校での性教育だけでなくテレビや新聞雑誌などにより今や洪水の様に流されている。その反面、クラミジア感染症は生殖年齢の男女で5%前後の頻度で広く蔓延していることが報告^{6),7)}されているにも拘らず、クラミジア感染症の認識度は高校生で45%前後と低い結果であった。このことから一般の人々にはクラミジア感染症に関する情報があまり流されていないことが示唆される。また性知識を入手方法の質問では友人や雑誌などが多く、中学や高校でのSTDに関する性教育が十分に行なわれていないことが明らかである。また木原ら⁸⁾は国立大学生の22.4%が今までSTDに関する教育を受けたことがないと報告している。

以上の結論として苫小牧市の高校生の性行動、性意識は大都市と同様と思われた。

今後、こうした高校生の実態から十代の若者に対して遅くとも高校一年の夏休み前までにHIV感染症だけでなくクラミジア感染症などを中心にSTDの予防教育を行なうことが望まれる。またコンドームの使用によるSTDの予防や避妊を啓蒙することが必要と考える。

謝辞

本研究に際し、苫小牧STD研究会の諸先生並びに協力高等学校の先生方の多大な協力があったことをここに記し、深謝申し上げます。

文献

- 1) 熊本悦明ほか：本邦における性感染症流行の実態調査（疾患・性年齢別、10万人・年対罹患率）1998年報告。日性感染症会誌, 10: 40-60, 1999.
- 2) 熊本悦明ほか：日本における性感染症（STD）流行の実態調査－1999年のSTD・センチネル・サーベイランス報告－。日性感染症会誌, 11: 72-103, 2000.
- 3) 田能村祐麒ほか：児童・生徒の性1999年調査 東京都幼・小・中・高・心障学校・養護学校の性意識・性行動に関する調査報告（東京都幼・小・中・高・心障性教育研究会編），p.67-97, 学校図書, 東京, 1999.
- 4) 熊本悦明：Chlamydia trachomatis 感染症における血清 IgA 抗体の診断学的意義と感染 risk 因子の検討・産と婦, 57: 470-490, 1990.
- 5) Martin, D. H., Pastork, J. G. & Faro, S.: Risk factors for Chlamydia trachomatis infection in a high risk population of pregnant women. In Chlamydial Infections. (Oriel, D., et al., ed), p.189-192, Cambridge University Press, 1986.
- 6) 林 謙治ほか：無症状の若年成人男子における Chlamydia trachomatis 感染率－初尿検査におけるスクリーニング調査－。感染症誌, 64: 1447-1453, 1990.
- 7) 林 謙治ほか：既婚、未婚の妊婦における Chlamydia trachomatis 感染率－北海道における field survey－。感染症誌, 64: 830-839, 1990.
- 8) 木原雅子：日本の若者の性行動と Sexual Health －全国国立大学生 Sexual Health Study－。性と健康 創刊準備号（財団法人 性の健康医学財団編）p.26-29, 2000.

*生徒のアンケートの文章をそのまま掲載しておりますので、「！」
というような露骨な表現も混じっています。しかしこれが素直な
生徒の気持ちのようです。一資料としてお読みいただけたらと思います。

Q. 「性に関する講話」で聞いてみたいことは？

<1年生>

- ・エイズのことを聞きたい
- ・男子と女子の性に対する意識の違いを聞きたい（複数回答）
- ・性で感染する病気について、うろ覚えなのでよく知りたい（複数回答）
- ・性交に適した年齢であるのですか？
- ・SEXをすると脳の成長などに悪影響があるのですか？
- ・コンドームを付けていても妊娠する可能性があるのですか？（複数回答）

<2年生>

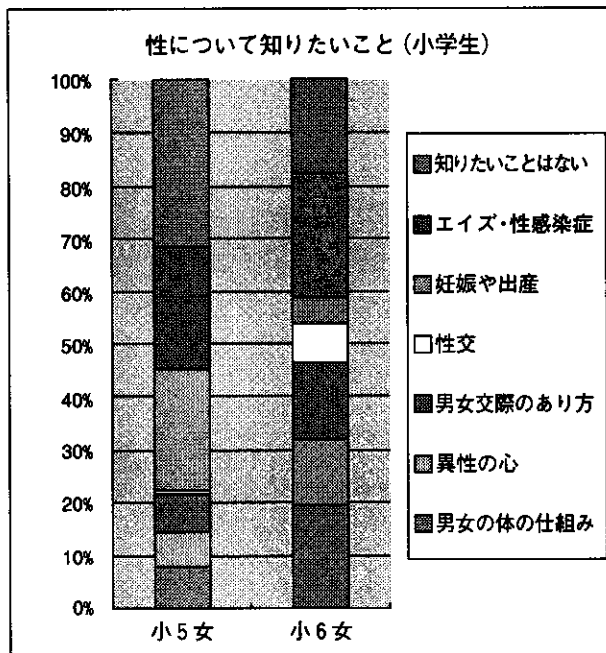
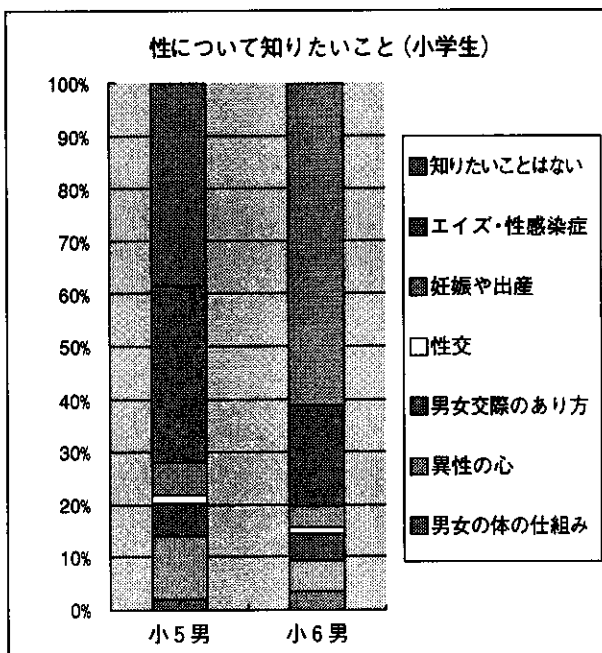
- ・男子と女子の性に対する意識の違いを聞きたい（複数回答）
- ・性病に関することを聞きたい（危険性とか現在の流行状況とか）
- ・間違った性の知識を持っていそうだから、正しいことをきちんと知りたい
- ・マスターベーションをすることは異常か？ 身長が止まるって本当なのか？ どれくらいの割合でするのが正常なのか？ やった後に自己嫌悪になってしまう（複数回答）
- ・中絶してしまった赤ちゃんはどうなるのか？
- ・安全日とは
- ・愛情と性欲の違いは

<3年生>

- ・避妊について聞きたい（外出しは安全か ・コンドームは安全か ・我慢汁では妊娠しないのか ・種類とその安全性 ・排卵について）
- ・STDなどの性感染症について聞きたい（感染経路など）
- ・ホルモンの役割について
- ・どうして男性は女性を求めるのか（欲求の差）
- ・オナニーのしすぎは体や頭に悪いのか（複数回答）
- ・性交のプラス面とマイナス面は？
- ・中絶とはどんなことをするのか？
- ・高校生でSEXをするのは本当にいけないことなのか？
- ・どんなことで子供が産めない体になったりするのか？
- ・教科書などでは教えてくれないところ、講演でしか聴けないことを教えて
- ・事実を曲げないで素直な話をお願いします。それがよく理解できると思います

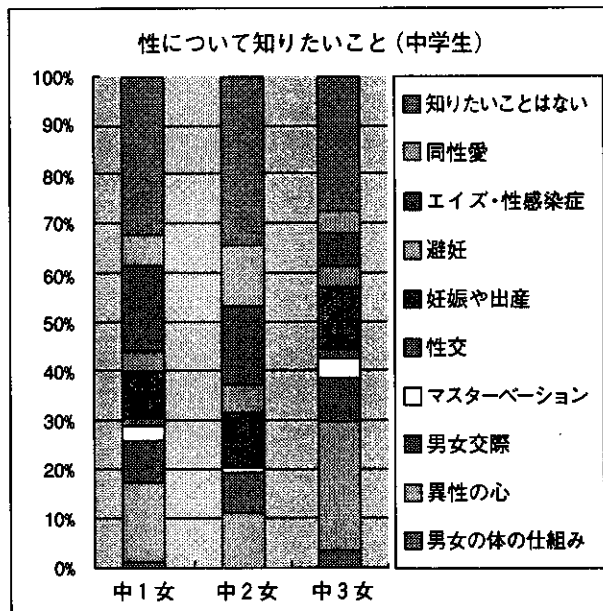
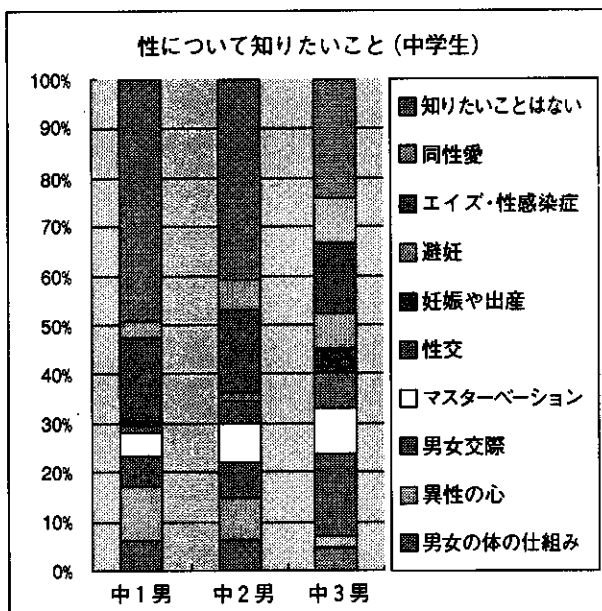
性について知りたいこと

(小学生の部)



性について知りたいこと

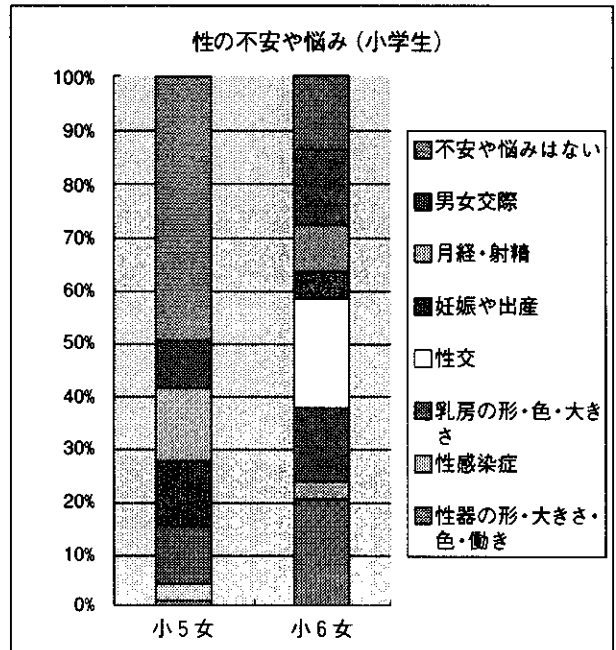
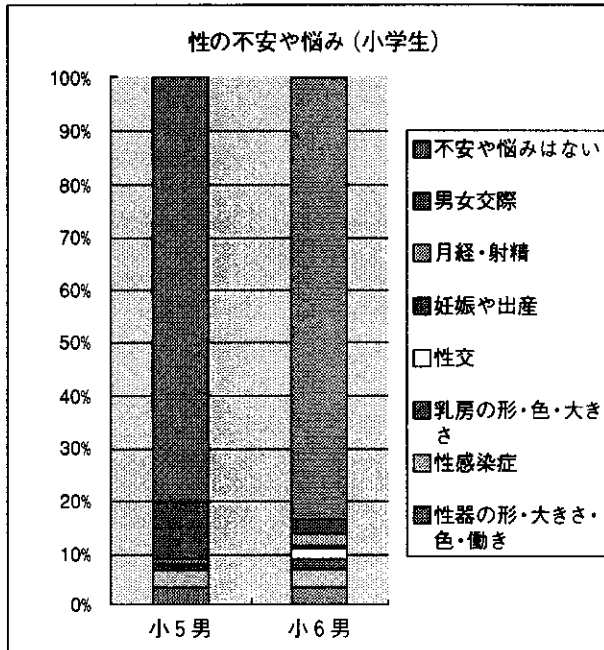
(中学生の部)



福岡県性教育研究会調査

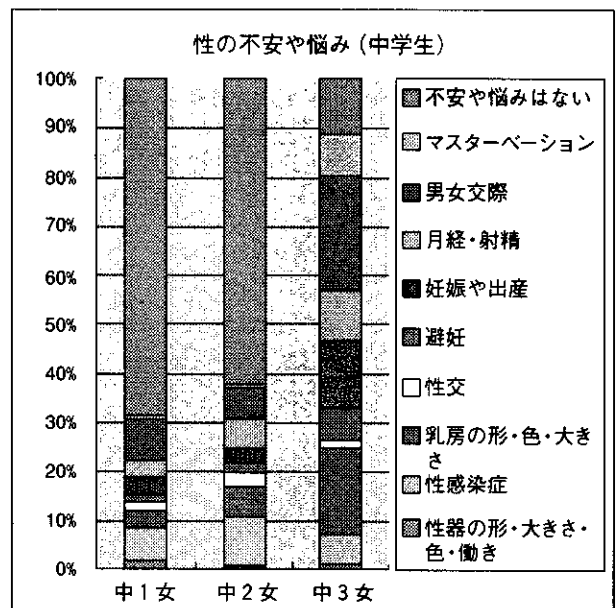
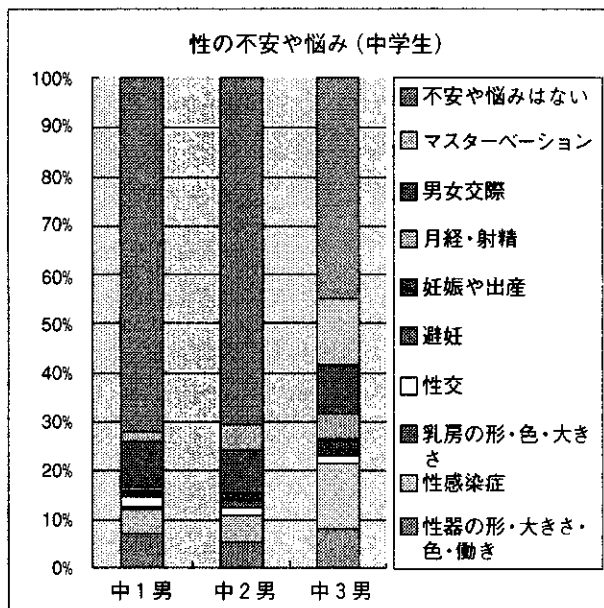
性の不安や悩み

(小学生の部)



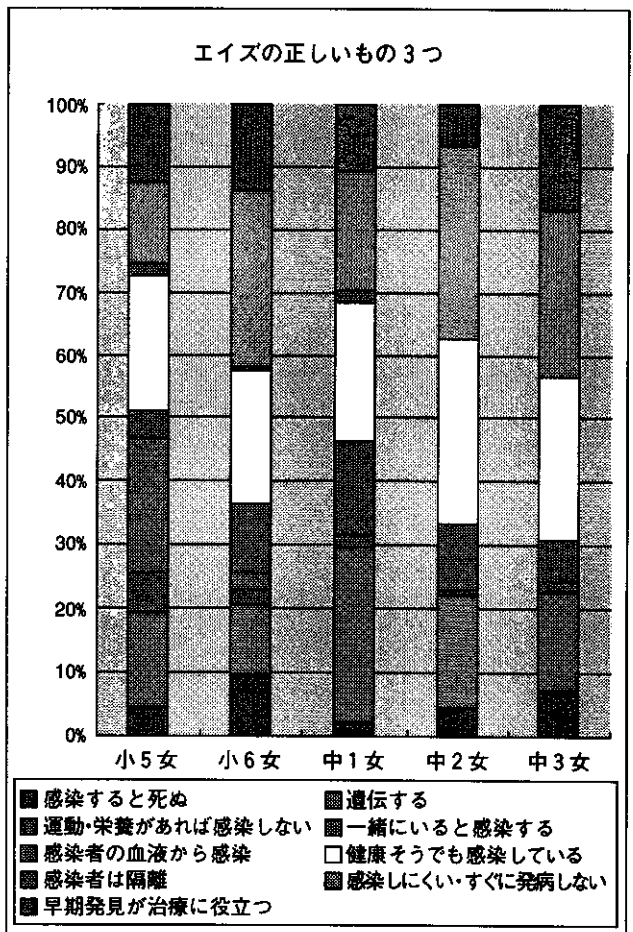
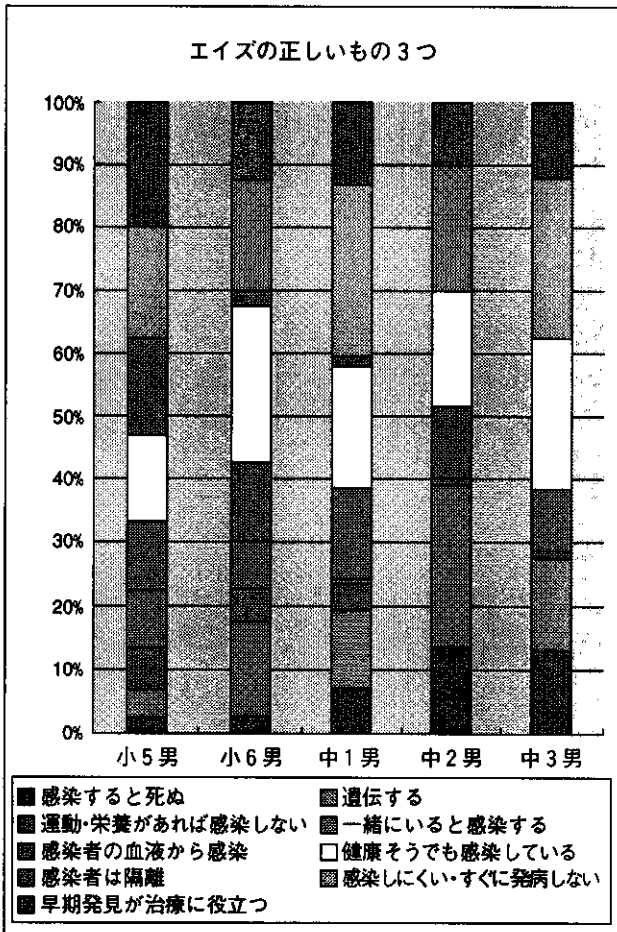
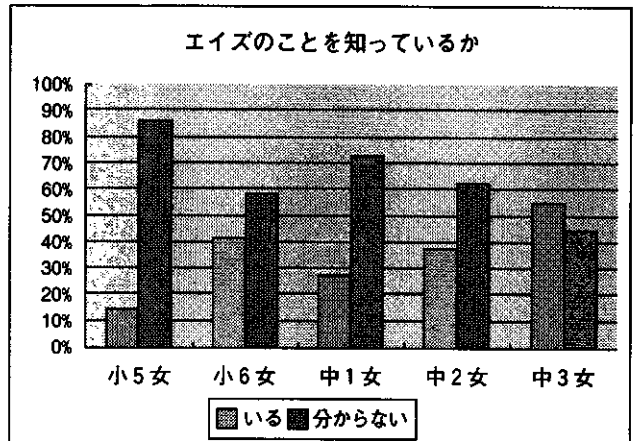
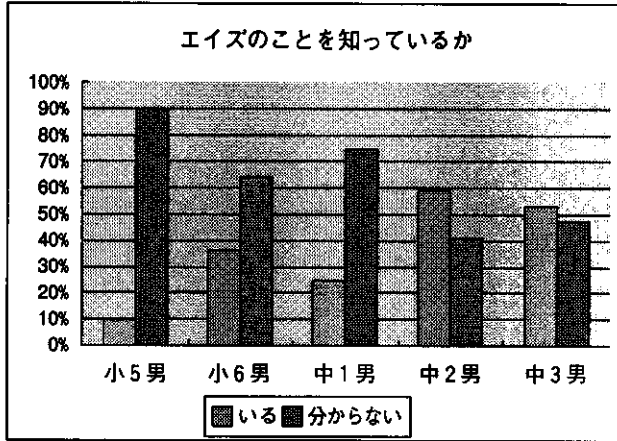
性の不安や悩み

(中学生の部)



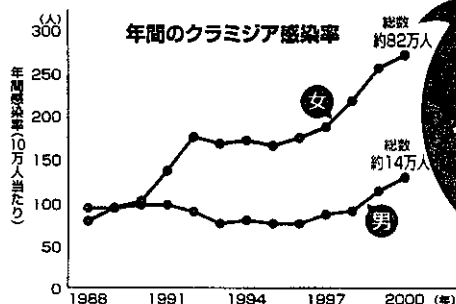
福岡県性教育研究会調査

エイズに関する知識



「15人に1人はかかって クラミジア」

女のコの感染
こんなに
増えてる!



※無症候のコも含めると全体で100万人にもなるのだ!

今、女のコたちの間で、困った大流行を巻き起こしている性の病気「クラミジア」。

「コンドームは避妊のためだけに使うものって思っていますか?」

もちろんそれも正解なのですが、クラミジアの予防にはコンドームは絶対必要です。ピルでも妊娠は避けられますが、クラミジアを防ぐことはできません。

「うつるかも」と思うとコが怖い。でもしたくない。予防はできるの?」

世の中にはコンドームをつけたがらない男性もいて、「つけて」といえない女性が少なくありません。でも残念ながら、「愛」だけではクラミジアは防げないのです。お互いを守るためにも、コンドームをつけるルールを守りましょう。



感染はどうしたら発見できるの? 産婦人科に行かなきゃダメ?

自覚症状はほとんどないから病院での検査が頼りに

クラミジアに感染すると、男性

は軽い尿道炎を起こしたりするのですが、女性で症状が出るのは5人に1人。それもわずかにおりものが増えたり、下腹部がちよっと痛い程度のことかほとんどです。だから、自分でクラミジア感染に気づく人はまずいません。となるとやはり産婦人科で調べることになりますが「内診を受けるのに勇気がいる」という人もいるかもしれません。ただ、最近ではかなり女医さんがふえていますし、検査台が上がらなくても簡単な検査ですむ方法も普及しています。



こんなときは病院へ▶▶

- 複数の人とHをした
- 下腹部がちよっと痛いことがある
- Hすると痛みがある
- おりものが以前より多くなった気がする
- 膀胱炎の症状がある

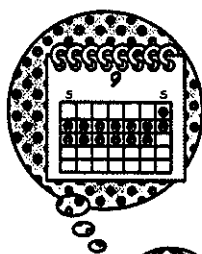
100%治る薬があるの? 飲むのは治ります

検査の結果、陽性と診断されれば少なからずショックを受けるはず。でも、クラミジアは早期に発見できれば、薬を服用するだけで完治できます。その薬はクラリスロマイシンと呼ばれる抗生剤で、きちんと1〜2週間飲み続ければ効果は十分あります。

ただし、発見が遅れると菌が子宮の奥へ入り込み、高い確率で不妊症を引き起こすことになるのは、すでにお話しした通りです。それ

クラミジアに感染しちゃったら? 入院とが手術とがするの?」

にいくらあなたが完治しても、関係を持った彼も感染してしまいますから、またSEXしてしまえばもとのもくあみ。彼にも、必ず病院で治療を受けさせることが大切です。いずれにしても、コンドームでの予防とかがかってしまった場合の早期発見と治療がこの病気のポイントになります。感染している疑いが少しでもあるなら、恥ずかしがらずにすぐに病院へ行って調べてみてください。



記事を読んで
心配になっちゃったコに
GOOD NEWS!

もっとくわしい情報
&パンフレットが
欲しいコはここへ!

「ちょっと心当たりが……」「不安になっちゃった」というコに、クラミジアについてわかりやすくまとめた1冊をプレゼント。不安な部分はこの1冊でクリアに!

「クラミジア感染症事務局」係まで、名前、性別、年齢、職業、住所を明記してお申し込みください。

①郵送で! (官製ハガキにて)

〒101-0051

神田南神保町郵便局留

②FAXで! 03-5283-0640

③インターネットで! <http://www.stdinf.com/>

★iモードでも情報がゲットできるよ!

<http://www.stdinf.com/i/>

「る」ってホント!? ってどんな病気?

撮影/鈴木雅弘
取材・文/野村由子
イラスト/アジカヅコ

お話ししてくれたのは…

(財)性の健康医学財団会
札幌医科大学名誉教授
熊本説明先生



お医者さんの立場から、性の健康についてさまざまな研究をされている第一人者。「セックスはいけないことではありません。ただし車の運転と同じ。ルールを守ってこそ楽しめるもの」というのが先生の持論。若者に対する性への理解も深く、ご講演はいつも大人気です。

今年の夏彼氏と♥♥だったコ、いろんな男のコとHしちゃったコは感染している可能性も!

自覚症状が出にくいクラミジア。こんなかたちで発見されることも!

CASE ②

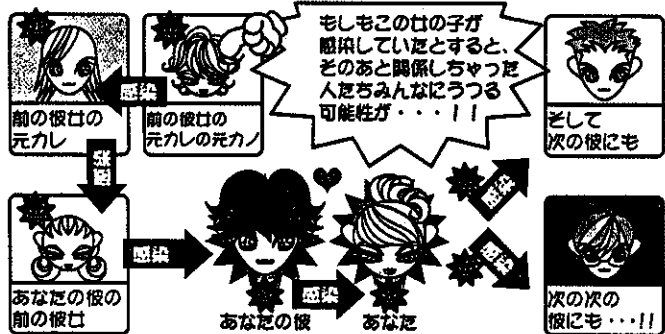


右の脇腹に激痛。
おなかの肝臓の
ほうまで炎症が
ほとんど自覚症状がないま
ま、子宮の奥へ奥へと入り
込んでしまうクラミジア。
骨盤からおなかの上のほう
にまで入り込んでしまって、
中には脇腹に激しい痛みを
覚えて、救急車で運ばれる
なんて人も。

CASE ①



妊娠で
初めて発覚!
ダーリンが感染源?
妊娠検査と同時に、病院で
行うクラミジア検査で陽性
と出てびっくり。感染源は
ダーリンであつたり、中
には結婚前の彼という場合も。
こうなると、奥さんからダ
ーリンにうつしちゃってい
る可能性も大。



「クラミジア」は性感染症といっ
て、SEXやフェラチオなどの粘
膜接触で性的に感染する病気です。
その正体は男性の尿道、女性の子
宮頸管で増える細菌。男女に関係
なく、相手がクラミジアを持って
いれば、1回のSEXでも感染し
てしまう危険があります。特にこ
こ10年で女性の感染者が増え(次

「クラミジア」って何ぞの?
Eikenella ホントかな……

ページ左上のグラフ参照。今やそ
の数は男性の2.4倍で、20代前半の
女性では15人に1人がクラミジア
を持っているというのが現状です。
しかも、Ray世代の経験豊富なコ
に限っては、4~5人に1人が感
染という結果も。その多くが、相
手がクラミジアくんとは知らずに
SEXしてつづつたもの。しかも
クラミジアは自覚症状がほとん
どないため、感染に気づかずそのま
まにしている人が少なくありませ
ん。

クラミジアは こんな問題を 引き起こす

●不妊症

ほとんどの場合自覚症状がないまま、
卵管を通過して子宮へ入り込み、人によ
ってはかなりのスピードで骨盤まで達
してしまふクラミジア。菌に感染した
卵管が閉じてしまい、不妊症におちい
ること。

●早産/流産

不妊は免れて妊娠できたとしても、ク
ラミジアに感染していると子宮外妊娠
が起きたり、流産や早産を引き起こし
がち。さらに、無事出産できても母子
感染で赤ちゃんにうつっちゃう場合も。

●AIDS

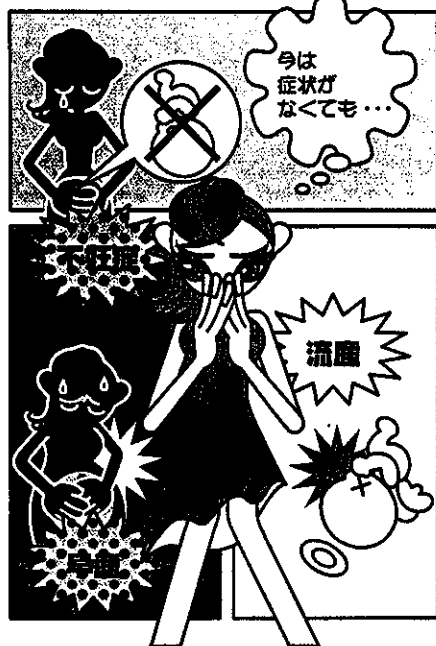
クラミジアに感染した性器にエイズウ
イルスがつりつく可能性は、感染して
いない人のなんと3~4倍! クラミ
ジアが原因でエイズになることも十分
あります。

クラミジアのいちばん怖いところ
は、SEXで簡単にうつされて
しまうこと。と同時に女性の場合
は自分の体に及ぼす影響もかなり
深刻です。なぜならクラミジアは
子宮の奥が大好きで、子宮頸管か
ら卵管へ、さらには骨盤へと広が
り骨盤感染を引き起こしてしまふ
から。こうなると不妊症におちい
りやすく、SEXは楽しめても、
将来赤ちゃんができないという悲
しい結果を受け入れるしかありま
せん。また、妊娠できても流産や
早産の可能性も高くなります。そ
してもうひとつ、エイズウイル
スはクラミジアで荒れた子宮に3~
4倍も感染しやすいというこ
ともつけ加えておきましょう。

※、症状がなくても将来に危険が潜んでいる



クラミジアにかかるとどうなるの?
症状が出なきゃコワイくないよわ!



II. 分担研究報告

厚生科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
分担研究報告書

一般雑誌における STD 関連記事の傾向と、
性関連記事の若者への影響とニーズに関する研究

研究協力者 堀口 雅子（性と健康を考える女性専門家の会会長）
白井 千香、野々山未希子、早乙女 智子、桜井 昌子（同会運営委員）
剣 陽子、石川 陽子、野田 洋子（同会会員）

研究要旨

若者の持つ性情報の多くが、メディア情報と友人からの情報であると言われている。そこで、①一般成人男女の入手しやすい雑誌での STD 関連記事の内容検討及び、②フォーカスグループインタビュー（FGI）による雑誌情報に対する若者のニーズの検討を行った。一般雑誌の STD 関連記事は、医学的信憑性のある記事が 44.7%に留まるなど、STD 予防啓発の効果が低く、特に男性誌ではセックス体験談などの興味本位な内容が中心であった。FGI からは、男女誌ともに STD 予防につながる情報が少なく、雑誌の性情報から性行動のリスク、特に STD の認識を得ることは期待しがたいことがわかった。

A. 研究目的

1. 一般成人の性知識・性情報の主な入手源となりうる一般雑誌の中で、STD 関連記事がどのように扱われているのかを明らかにする。
2. 10代後半～20代前半の若者の、メディアに対する利用度やニーズを質的に把握する。

B. 研究方法

1. 一般雑誌における STD 関連記事内容評価
2000年版大宅壮一文庫目録から、「STD」「性感染症」「性病」「エイズ」「クラミジア」「淋病」「梅毒」「コンドーム」をキーワードにして、記事を検索した。これら記事内容を評価し、調査対象として「STD を主目的とする記事」のみを選択し、「医学的信憑性」「予防効果」「興

味本位な取り扱い方」「知識伝達性」の4項目に分け、5段階評価を行った。

2. フォーカスグループインタビュー（FGI）

広告代理店の雑誌媒体閲覧指数及び、各雑誌社の対象年齢層及び購買部数から、10代後半～20代前半の購買部数の高い記事を選択した。（女性誌2記事・男性誌1記事）東京都内と福岡県内の対象年齢の全日制高校生、定時制高校生、及び大学生に、女性誌、男性誌の STD 関連記事それぞれ1記事を使用して、記事及びメディアの性情報に関する FGI を行った。FGI は13回で、すべて録音し、逐語録をもとに KJ法にて分析した。FGI にあたっては、調査目的、方法、録音すること、結果の公表方法、個人名は特定されないことなどの説明を行い、同意書にて参加の同意を確認した。

C. 研究結果

1. 一般雑誌における STD 関連記事内容評価
キーワードを元に検索されたのは 33 社・57 誌・179 記事で、女性誌 13 誌・男性誌 16 誌・男女共通誌 28 誌であった。この中で「STD に直接関連ある」と判断された 29 社・43 誌・120 記事について 5 人の研究者が記事内容の評価し、最終的に「STD を主目的とする記事」と評価された 21 社・29 誌・76 記事を対象とした。29 誌の内訳は、女性誌 10 誌・男性誌 10 誌・男女共通誌 9 誌であった。

76 記事の内容を 4 項目に分け、5 段階評価で点数化し、5 人の評価点の平均値が 4.0 を越えるものをそれぞれ「医学的信憑性あり」「興味本位な取り扱い方」「知識伝達性あり」「予防効果あり」と判断した。「医学的信憑性あり」と判断した記事は全体の 44.7% で、このうち女性誌が 22.4% と半数を占めているのに対し、男性誌が占める割合は 6.6% と少数であった。男性誌の中には、医学的根拠のない「外見や仕草でわかる、危ない女の見分け方」の紹介など、明らかに誤った知識を提供している記事も多くみられた。また、「予防効果あり」と評価した記事は全体の 14.5% であり、STD を主目的としても STD 予防に結びつく内容の記事は少なかった。その中でも女性誌が占める割合は 9.2% であるのに対し、男性誌が占める割合は 1.3% であった。特に、低用量ピル解禁を前に出された男性誌には、「ピルが解禁されれば風俗店でコンドームが必要なくなる」「ピルを服用している女性が相手なら、浮気がばれにくいので、遊びやすくなる」など、STD を予防するのではなく、蔓延を促進するような内容の記事が多くみられた。

2. フォーカスグループインタビュー

記事の中で有用だと思う情報は、STD の診

断や治療、具体的な避妊法等であった。特に女性は、STD については友人に聞き難く、雑誌からの情報を有用だとする意見が多かった。男性では、避妊は男の責任としてメディアから積極的に避妊に関する情報収集をしようとする者から「妊娠は女性のこと」としてあまり興味のない者まで幅がみられた。また、男性はハウツー・セックスの情報源としてアダルトビデオを利用していた。さらに、記事の中で信用できる情報は、婦人科受診の重要ポイントなど、女性誌の医学的な内容であった。反対に信用できない内容としては、ペニスの大きさや 1 日のセックス回数、過激なセックス体験談などの項目が挙げられた。

メディア一般から受ける影響としては、常識・平均などの言葉に自分も合わせようとする、男性はセックスのテクニックやアダルトビデオは模倣したくなるなどの意見が、特に高校生に多かった。女性は、女性誌については字の細かさや字数の多さから情報量を多いと感じていたが、体の仕組みや STD、避妊についてのまじめな項目については、情報内容に期待をしていた。男性誌については自己中心的なセックスの経験談などに嫌悪感をもっていた。男性においても、男性誌の過激な性行動は全ての男性に当てはまるものではなく誤解されやすいと批判的に捉えていた。

D. 考察

1. 一般雑誌における STD 関連記事

女性誌と男性誌では STD の取り上げ方が明らかに違い、男性誌では性に関する記事はエロスという視点で取り上げられることが殆どであり、STD についての真面目な議論等は性欲を減退させるものとして敬遠される傾向がある。一方、女性誌ではセックス（性行為）を楽しむために正しい情報は不可欠という姿勢が